



国内最大規模を誇る、ヤマハの「無響室」。音の反射をなくし、ピアノ本体から直接出る音だけにターゲットを絞り、音の物理データを計測する特別な部屋。

る土台づくり。弦を張る工程・鍵盤のアクションの取り付け・整調、調律、整音による音づくりまで、一切の妥協を許さない。日本の楽器産業の道を切り開いたヤマハ創業者「山葉寅楠」と、数々の発明で楽器王と呼ばれた河合楽器製作所の創業者「河合小市」。日本ピアノの原点である2人の楽器製造への情熱は、時代を超え、確実に受け継がれている。

コンテスタントがベストを尽くすために

浜松国際ピアノコンクールの舞台上に並ぶ、ヤマハ・カワイ・スタインウェイの3つのピアノ。コンテスタントは10分間試弾し、コンクールで使うピアノを選ぶ。今回の取材でヤマハと河合楽器製作所をそれぞれ訪れたが、両社の想いは共通であり、意識は競合メーカーではなく、コンテスタントたちに向いていた。コンクールの運営者として、全演奏者が安心して思い通りに表現できるピアノを提供する。



ピアノメーカーの熱い想い

コンサートピアノを造る

Hamamatsu International Piano Competition
episode 2



舞台裏で最終調整。コンテスタント一人ひとりが求める音を叶える

浜松国際ピアノコンクールの舞台裏で活躍するメーカー専属の調律師たち。ホール大きさや形状に合わせて、響き方を緻密に計算し、審査員席への音の届き方を、細かく調整する。若きコンテスタントたちが自由な楽曲で演奏するこのピアノコンクールでは、より弾きやすく、いかに表現しやすいピアノに仕上げることが重要だ。そして調律師は舞台裏で、コンテスタント一人ひとりがベストを尽くせるよう、匠の技でそれぞれの要望に忠実に応える。その姿には、自らが作り上げてきたピアノに対する愛情と、それを弾くコンテスタントに対する敬意、そして自身の使命感が映し出されている。



YAMAHA

「美が響く力」をコンセプトとするフルコンサートグランドピアノ「CFX」は、開発期間19年。世界中のトップピアニストたちが求め続けた表現力をもつ。その音に、ピアノの頂点が見える。



楽器事業本部 事業統括部
ピアノ事業推進部
ピアノマーケティング&セールスグループ
主幹 田所武寛さん

近年ピアノの世界では「弾けるのは当たり前。どう表現するか、いかに個性を出すか」が重要になっています。ピアニストが進化しているのだから、ピアノ自体も進化すべきだと、私たちは考えています。世界トップシェアを誇るようになった現在では、ヤマハのピアノを弾いてくれるたくさんのピアニストから、生の意見を吸い上げることができます。それにより理想とする音を追い続けられます。「常に自らを超え続ける」創業者から受け継ぐポリシーです。

〈本社〉浜松市中区中沢町10-1 <http://jp.yamaha.com/>

KAWAI

最高傑作「Shigeru Kawai」。自分を表現できるピアノがない、と演奏活動を休止したピアノ界の至宝ミハイル・ブレトニョフ氏に認められた逸品。彼はこのピアノで演奏活動を再開したといわれている。



Shigeru Kawai ピアノ研究所
調律師(MPA)
村上達哉さん[右]
大久保英賀さん[左]

カワイピアノならではの独特の音色を聴き、より多くの人に「カワイのピアノに触れてみたい」と思ってもらいたい。そのためにも世界のコンクールにたくさん出たいです。前回の浜松国際ピアノコンクールの優勝者アレクサンダー・ガジェヴさんをはじめ、ファイナリスト6名のうち3名がカワイフルコンサートピアノ/SK-EXを選んでくれました。これをとても誇りに感じます。今後も世界に選ばれるピアノづくりを続けていきたいです。

〈本社〉浜松市中区寺島町200番地 <http://www.kawai.co.jp/>

職人による「匠の技」と緻密な「科学的分析」で作るコンサートピアノ

コンサートピアノは3年から5年の歳月をかけて、一台一台手作りで丁寧生産される。両メーカーともコンサートピアノを製造する場所は、社内の人間でも立ち入り厳重に禁止されている。設計者は、経験や推測に基づいた開発ではなく、常に音の実験と科学的分析を繰り返すことで、極限まで理想に近づける。そしてピアノを知り尽くした熟練職人は、木材の目利き・フレームをはじめとす

進化しつづける、世界のトップメーカー「ヤマハ」と「カワイ」

世界屈指のシェアを誇る、浜松発祥の「ヤマハ」と「カワイ」。まだ日本にピアノが存在しない1800年代前半から形を変えない「スタインウェイ」に比べ、日本の2大メーカーは、常にピアノを進化させている。浜松国際ピアノコンクールにおいても、両メーカーは「よりコンクールに適したピアノを」と、回を重ねるごとに最高峰のピアノを提供。日本のピアノ文化は後発であるが、今や世界のスタインウェイに並ぶレベルにまで到達している。